

花き研究室 研究紹介

リンドウの新品種育成



県育成品種 るりおとめ[®]

○他産地の出荷のない時期（6～7月）に出荷可能な、生産性の高い紫系極早生品種を育成しています。

○県育成品種「るりおとめ[®]」は、鮮やかな紫色と咲き揃いの良さが特徴です。

○有望な株を維持するため、組織培養苗の増殖技術の確立にも取り組んでいます。

アジサイの新品種育成



きらきら星(H27品種登録)



パラソルロマン(R7品種登録)



プリンセスリング(R7品種登録)



エンジェルリング(R7品種登録)

○県内鉢物生産の安定化を図るため、希少性の高い特徴をもつ新品種を育成しています。

○県育成品種は、花びらが何枚も重なって咲く「八重咲き」や、花びらに白い縁取りのある「覆輪」があることが特徴です。

花き研究室 研究紹介 2

環境変動に対応したトルコギキョウの高温対策技術の確立



○県内のトルコギキョウ生産は、苗を8月から9月に定植しますが、夏から秋の高温は苗の生育不良等の原因となっています。

○高温対策技術の確立のため、生育・開花に関わる環境要因のモニタリングと解析、高温回避技術の活用が切り花品質に与える影響の調査に取り組んでいます。

冬季のスプレーギクの生産性向上技術の確立



○冬季は日射量やハウス内の二酸化炭素が減少し、光合成量が低下することによって、切り花の品質が低下してしまいます。

○キクの生産性向上のため、炭酸ガス施用と施用効率の高まるハウス内環境制御方法について、研究に取り組んでいます。